

「大阪府北部地震被災地支援活動助成事業」 助成決定にあたって

はじめに

2018年6月に発生した大阪府北部地震によって、約4万戸を超える家屋が被災し、水道・ガス等のライフラインが止まるなど、多くの被害が発生しました。

この地震災害でお亡くなりになりました方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

大阪府北部地震発災を受け、大阪府内7市に災害ボランティアセンターが開設されたほか、大阪市内においてもボランティアによる支援が行われました。

大阪府内北部地域の広範囲に及んだ被災地においては、屋根瓦へのブルーシート張り等技術を伴うボランティア活動や、部屋の片づけ、家具の移動、壊れた家財の廃棄などについて、積極的なボランティア活動が展開され、6月末までで延べ4,000名を超えるボランティアが活動を行いました。

この状況を受け、中央共同募金会では、被災地で支援活動を実施するボランティアグループやNPO等への助成事業を実施することとしました。

1. 助成応募及び決定状況

今回の助成事業においては、発災直後から活動日数が30日以内と短期の支援活動を対象とした「緊急救援活動助成」及び、活動日数が31日以上の中・長期の支援活動を対象とした「復旧・復興支援活動助成」の区分を設けて9月12日より助成応募を受け付け、10月10日の締め切りまでに合計13件、1,714万円の応募を受け付けました。

さて、大阪府北部地震災害の特徴として2点があげられます。

1点目は「被害状況が見えにくい」災害であったことです。倒壊家屋などはわずかであり、街中を一見しただけでは被害の深刻さを把握することは困難です。しかし、街中を歩くと、屋根瓦のずれや建物の外壁の亀裂など、損壊した住戸が多く見られます。業者に修理を依頼しても長い順番待ちを余儀なくされたり、また修理したくてもそのお金がないという声も多く聞かれました。

2点目は、「都市型の災害」であったことです。被害の大きかった大阪府北部地域は、人口が密集しており、かつ市町外から移り住んだ住民がその多くを占めている地域です。地域のつながりが希薄な地域もあり、支援を必要とする声を上げにくい人たちへ必要な支援が行き渡らず、困りごとが埋もれてしまう危険性がありました。

これらの特徴を支援者として認識したうえで、行政、社会福祉協議会、民生委員やボランティアなどにより、丁寧な安否確認や戸別訪問が実施されました。そのなかで、埋もれたニーズが多く発見され、困りごとを解決するための活動が展開されました。

今回の助成応募では、こうした困りごとを解決するためのボランティアによる活動として、安否確認や炊き出し、配食サービスの実施、屋根瓦が破損した家屋へのブルーシート張り、損傷した塀等の撤去、家屋内の片付け、家具の運び出し等の活動のほか、災害ボランティアセンターの運営支援やボランティアコーディネート等の活動の応募がありました。

2. 選考にあたっての考え方

選考にあたっては、活動の目標や問題意識、手法、住民の参画性や他団体との連携等通常ボラサポの審査の際に基準としている点のほか、今回は「おおさか災害支援ネットワーク」(OSN)が開催している災害時連携会議への参加や、活動場所の「災害ボランティアセンター」等との連携についても確認を行い、被災地における連携状況を重視して選考を行いました。

その結果、被災地での連携が行われておらず、活動状況が把握できなかった1団体を不採択とすることとし、12団体、1,408万円の助成を決定することとしました。

なお採択した活動において、当助成の運営・審査委員と役員重複のある2団体からの応募が含まれていますが、該当案件の審査の際は審議に加わらず、公平性を担保したうえで審査を行い、助成を決定しました。

3. 今後の予定について

大阪府北部地震の被災地は、台風21号の被災地とも重なっており、現在も両災害をともに活動対象とする団体により、屋根のブルーシートの張り等を中心とした支援活動が継続されています。

「ボラサポ・台風21号」は、当助成と同時期に第1回助成決定を行うほか、引き続いて第2回助成(2019年2月から応募受付)を実施することとしており、大阪府北部地震に関する今後の活動についても継続性を担保いたします。詳しくは本会ホームページに掲載する、ボラサポ・台風21号災害の応募要項でご確認ください。(中央共同募金会ホームページ:<http://www.akaihane.or.jp/>)

最後となりましたが、本助成事業は、平成30年6月22日から募集をはじめた「大阪北部地震に係るボランティア・NPO活動支援金」へのご寄付を財源として実施しています。

ご理解、ご支援をいただいた多くのみなさまへ、深く感謝申し上げますとともに、今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、寄付者の方がたから託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、被災地の復旧・復興支援活動を通じ、被災された方々の支えとなる活動をしてくださることを期待しています。

災害ボランティア・NPO活動サポート募金および
大阪府北部地震支援金における運営・審査委員会
委員長 山崎 美貴子